

令和4年度

事業計画書



公益財団法人草津市コミュニティ事業団

はじめに

当事業団は、草津市協働のまちづくり条例に基づく市の指定を受けた中間支援組織として、市民公益活動団体や地域まちづくり協議会など民間のステークホルダーと行政との官民連携の結節点として協働のまちづくりを推進しています。平成30年度から令和4年度までの中期行動計画として定めた「アクションプラン2018」に基づき、“市民に愛され、草津で末永く協働のまちづくりを推進していきます”をビジョンに掲げて様々な事業を展開しています。

令和4年度は、2年目を迎える草津市立市民総合交流センター「キラリエ草津」を拠点に、ともに入居する男女共同参画センター等の市の機関や、草津市社会福祉協議会等の関係団体との連携・協力関係をさらに深め、「アクションプラン2018」の総仕上げを行うとともに、成果と課題を検証しながら、新たな中期行動計画を定めます。Withコロナ時代の新たな生活様式が求められる中、様々な社会状況の変化に柔軟に対応しつつ、さらなる「事業団ブランド」の確立を目指し、草津市の豊かなコミュニティづくりに欠かせない「オンリーワン」の組織として、次に掲げる基本方針のもと、令和4年度の事業計画を定めます。

（1）事業団ならではの専門性とネットワークを活かした“中間支援”の追求

草津市では令和3年度から「第6次草津市総合計画」がスタートしています。第1期基本計画でリーディング・プロジェクトのひとつとされた「地域の支え合い推進プロジェクト」に関わり、各地域まちづくり協議会の支援については、引き続き会計・税務・労務等業務の支援を行うとともに、人材育成や地域課題の相談対応等、まちづくりに関わる支援の強化を図ります。また、市民公益活動団体等に対しては、これまでの事業展開に加え、資金調達力を高めるための仕組みとして、「オンライン寄付システム」を活用した「(仮)NPOファンドレイジング事業」を試行するなど、新たな取組も進めます。

指定管理施設の運営では、高齢者を含む多世代間交流を図り「健幸都市」を推進するロクハ荘、みどりのサポートセンターを窓口「ガーデンシティくさつ」を推進するロクハ公園、草津市文化振興条例に基づき市民とともに創るスタイルで「13万人の文化プロジェクト」等を実施する文化ホールが、それぞれの施設の特徴を生かしながら市の政策実現を支援します。また、各指定管理施設では、新型コロナウイルス感染症の拡大状況に応じて、引き続き感染症拡大防止対策に万全を期し、安全・安心な施設運営に努めます。

(2) 組織の足腰を強くする経営・人材マネジメントの強化

持続可能で安定した経営基盤を確保するため、現在、受託している指定管理施設については、事業の選択と集中により効率的かつ合理的な施設運営に努めるとともに、事業団が出資する合同会社草津市スポーツ振興事業体の運営する社会体育施設については、令和4年度が新たな指定管理期間の初年度であり、運営パートナーのコナミスポーツと連携しながら、政策支援型の事業運営を行います。

また、人材マネジメントについては、令和4年1月に草津市が示した「コミュニティ事業団のあり方について」の方針決定を受け、プロパー職員の新規採用を行うとともに、働き方改革に伴う契約職員等の処遇改善や各種研修、人材育成評価制度等を通じて、職員の人材育成、組織体制の強化を図ります。

(3) 戦略的な情報発信とブランド力の強化

市民生活を中間支援組織として支える「オンリーワン」の組織として事業団の使命を達成するには「事業団ブランド」の確立が欠かせません。そのため、経営に参画した「えふえむ草津」やSNS、動画チャンネルの活用など新たな情報媒体を積極的に活用し、情報誌「コミュニティくさつ」やホームページなど既存の情報媒体とも連携させて情報を重層的に発信します。

とりわけ、「えふえむ草津」の活用では、安定軌道に乗った市民主役の情報番組「くさつコミュニティtea time!」をより一層定着・充実させ、さらなる認知度の拡大を図るとともに、令和3年度から開始した情報誌「コミュニティくさつ」の地域版発行など、戦略的な情報発信により市民に身近な事業団としての価値を高めます。



事業計画

I 公益目的事業

1. コミュニティ振興及びまちづくりに関する事業

(1) まちづくり振興

ア. まちづくりに関する情報の収集および発信

① まちづくり情報誌「コミュニティくさつ」の発行（2,631千円）

市内の特色ある団体や取り組みを紹介するまちづくり情報誌として発行します。年間2回の市域版に加え、昨年度から開始した地域版を年間2回発行します。

地域版の作成にあたっては、地域まちづくり協議会と協働で取り組み、地域まちづくり情報の充実と広報力の向上、地域とのつながりづくりに生かします。



② 市民活動団体情報の収集と発信（110千円）

市内で活動する市民活動団体の基礎情報の調査を実施し、「市民活動団体情報つながりのめ」として冊子配布してきましたが、令和4年度から事業団HPでキーワード検索ができる形で情報を追加し、団体の情報発信やパブリシティ活動、ボランティアマッチングによるそ野の拡大、団体同士のネットワーク形成などに活用します。

また、新たにニュースレターを年2回作成し、掲載団体に送付します。活動風景のレポートや有益なサポート情報を届け、更なるネットワーク形成や活動基盤の強化につなげるほか、団体の中からコミュニティFM番組「FRONT LINE」に出演いただき、活動の広報支援にもつなげます。

③ コミュニティFMを活用したまちづくり情報の発信（2,015千円）

まちづくり活動に取り組む団体の活動PRの機会として、今年度もFM番組「くさつコミュニティTeaTime!」を、えびえむ草津と連携しながら放送します。“市民自らが出演するFM番組”として情報誌や助成事業、地域まちづくり協議会の支援事業などと連携しながら、多くのまちづくり活動団体に出演してもらえようコーディネートします。



④ まちづくり協議会 HP 運営サポート（132 千円）

地域まちづくり協議会運営の透明性の確保と広報力向上のため、希望する協議会の HP 運営サポートを行います。10 地域のまちづくり協議会と HP 保守業務を締結し、IT 系 NPO と連携しながら運営をサポートします。また、希望する協議会に対しては SNS 開設やオンライン会議の指導など HP 以外の広報支援も行います。

イ. まちづくりに関する相談およびコンサルティング

① 相談・コンサルティング（272 千円）

中間支援の基幹業務として、まちづくりに関する各種相談に職員が「まちづくりコーディネーター」として対応します。団体運営や事業の進め方に関する助言から、団体間のコーディネートまで幅広い対応を行います。それぞれのニーズに応じながら、地域まちづくり計画策定サポートや人材育成講座、まちづくり講座の実施、事業団施設や大学などと連携した各種サポートも実施します。また、市民活動団体や地域まちづくり協議会の資金調達力を高めるための仕組みとして、「オンライン寄付システム」を活用した「(仮) NPO ファンドレイジング事業」を試験的に開始し、将来的には助成事業等と合わせた資金支援メニューの一つとして機能させていきます。

ウ. まちづくりに関する人材育成および研修

① ひととまちの未来をつくるカレッジ（276 千円）

市民活動団体や地域まちづくり協議会、これから活動を始めようとする市民を対象とした学びの機会を提供します。活動実務のスキルアップ講座はひとまちキラリ助成事業に移行して実施し、カレッジでは、想いをカタチにしてきた実践者の話や地域まちづくり協議会の事業紹介、大学サークルとのマッチング会など、多様な学び・気づきの機会を創出します。

また、コロナ禍での開催を想定し、対面型、オンライン型やハイブリッド型など柔軟な参加形態をとるとともに、入居するキラリエ草津の登録団体である「キラリエサポーター制度」とも連携することで草津の市民活動団体に広く提供します。



エ. まちづくりに関する活動支援および資金助成

① ひとまちキラリ（助成／活動賞）（2,217 千円）

市民公益活動団体への助成制度である「まちづくり活動助成」と、長年、地域で地道な活動を続けてきた団体に“ありがとう”の気持ちを伝える「イキイキ活動賞」を引き続き実施します。助成事業では新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、令和2年度、3年度と十分な活動ができなかった団体への再チャレンジ枠を設定します。

また、これまで「ひととまちの未来をつくるカレッジ」で実施していた実務講座を、ひとまちキラリ事業に移行し、採択・提案団体等に有益な実務・実践型研修として実施することで、伴走支援を強化します。



② まちづくり協議会 会計・税務・労務等サポート業務（13,083 千円）

地域まちセンの指定管理者として2期目を迎えている地域まちづくり協議会の会計、税務、労務などの日常業務のサポートおよびネットワーク環境のインフラ整備と保守を草津市からの受託事業として実施し、各協議会の適正かつ円滑な事務の支援を行います。また、今年度はセンター職員が使用する業務用PCおよびインターネット環境を構築する「地域まちセンパソコン等整備業務」を行います。

③ 市民交流スペース「協働ひろば」整備事業（1,300 千円）

キラリエ草津5階の市民交流フリースペース「協働ひろば」では、草津市と協働協定を締結し、市民公益活動団体等が交流する場所として、利用案内や日常管理をするとともに、チャレンジ企画や作業スペースの提供、協働コーディネーター等と連携しながら相談支援等を行っています。令和4年度は、ひろばの魅力、利便性の向上を図るため、市と協働で必要な備品等を整備する「空間デザイン事業」を実施します。

オ. その他、各種団体との協働事業の推進（1,230 千円）＊共通経費含む

市民総合交流センター（キラリエ草津）の入居団体や市民公益活動団体等との連携を深め、柔軟に協働事業にチャレンジしながら、事業団を応援してくれる事業団ファンの獲得に積極的に取り組みます。

(2) コミュニティ活動支援

草津駅西口近くにある草津コミュニティ支援センターの施設管理を行うとともに、市民で運営する運営会の活動をサポートします。まちづくり機器貸出事業はキラリエ草津を拠点に継続実施します。

① 草津コミュニティ支援センターのサポート（3,011 千円）

公設市民営として「草津コミュニティ支援センター運営会」による自主運営を基本に、事業団は施設管理のサポートをします。また、利用団体への鍵の受け渡し管理は、運営会が管理責任者として保管管理し、緊急時の対応についても運営会が一次対応することとして、事業団のバックアップ体制でサポートします。

② まちづくり機器の貸出（1,044 千円）

市民公益活動団体や、地域まちづくり協議会、町内会等が地域のコミュニティ振興を図るため、イベント等に利用する「各種まちづくり機器」を貸し出します。

2. 高齢者福祉及び多世代交流に関する事業

(1) 長寿の郷ロクハ荘

指定管理期間(令和2年度から5年間)の3年目となります。指定管理提案としてこれまで行ってきた「健幸都市くさつ」をもとに、ロクハ荘を「アクティブ・オープン・プレイス」と位置付けた運営を行います。新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を講じながら、安全・安心な施設運営に努めます。

① 高齢者の外出の機会の創出 (244 千円)

高齢者の楽しみや仲間づくりに向け、外出機会を創出します。懐かしい映像と音楽を生かし、脳の活性化につながる「ロクハ回想サロン」やロクハ公園の季節にあわせた公園連携事業「さくらを見に来よう」などコロナ禍でも可能な楽しみ方をロクハ荘で見つけていただきます。



日頃の温浴施設にイベントを加えた月1度のお風呂の日では、お得感や特別感を味わえるよう工夫し、お風呂を楽しむ機会を提供します。

② 高齢者の社会参加の場の提供

利用者や地域の方との「防災と安全・安心のまちづくり」の一環として地域ぐるみ(町内会・地域活動団体等)の避難訓練(くさつシェイクアウト含む)を実施します。また、日頃の同好会活動の成果発表の場として、希望される同好会の発表会や展示会を実施し、新規会員の勧誘やチャレンジする意欲の向上など、同好会支援につなげていきます。

③ 仲間づくりの輪を広げる (176 千円)

SDGsを意識しながら、コロナ禍のおうち時間を充実したものとするため「心に優しい布絵本作り」など、環境・福祉に関わる事業をシリーズ化して展開します。

昨年9月から、市農林水産課の指導のもとで、草津市の「ねずみ大根」の栽培を始めました。滋賀県の昔の食文化である「ぜいたく煮」など、最後まで食べきる生活の知恵、大切さを若い世代に繋げていく活動を続け、草津の食文化の発信拠点の一つになるよう活動します。



④ 多世代の交流が深まる（458 千円）

自然公園や中庭を会場にした「緑葉（ロクハ）あそびクラブ」や「つどいの広場くれよん」と連携した子育て支援イベント、クリスマスやひなまつりなどの季節のイベント等を継続して行います。

同好会の一大イベント「ふれあいまつり」は、コロナ禍での同好会の意向を踏まえ、2年開催自粛となっています。今後も、感染拡大の状況を踏まえながら、ふれあいまつりの在り方を検討していきます。

⑤ 自らの健康づくりや介護予防の継続（471 千円）

- ・「JOYレク！オンライン」といった企業主催のオンラインレクリエーションを新規事業に取り入れ、多種多様なプログラムで飽きのこない事業を提供します。全国各地の施設とつながるオンライン生配信でロクハ荘でも気軽に参加できます。

- ・コロナ禍でも新規参加者が増え、ますます盛況になっている健康バンド教室は、平成28年から、筋肉量を増やして転倒防止に繋げ、健康寿命を延ばすため、立命館大学スポーツ健康科学部との連携で始まりました。今後も「健康バンド」をロクハ健康プロジェクトの一翼として運営し、市の健幸都市宣言に沿った事業展開を行います。



- ・健康なんでも相談では、「離乳食相談会」対象の乳児から健康チェックコーナーに興味がある高齢者まで幅広い世代に対応します。健康チェックでは、血流・血管測定や体組成チェックなど年2回以上行うことで、測定結果が比較でき、日頃の生活習慣の見直しにつなげていきます。
- ・園芸療法の手法を用い、いきがいのある生活、社会とのつながり、こころの回復や生活習慣病、認知症予防などを目指し、「駆付け型のガーデニング講座」をロクハ公園と連携して実施します。園芸を通じて、脳と体を動かし、植物の癒し効果で、健康増進や生活の質（QOL）の向上、いきがいをを感じる余暇活動の提供などを目指します。

3. 環境及び公園緑地等に関する事業

(1) ロクハ公園等

令和4年度は、令和3年度から始まった（公財）草津市コミュニティ事業団、草津造園協同組合と（株）サンアメニティ大阪の三者共同による3年間の指定管理事業の2年目となります。

重点方針を、「施設を知り抜くプロの連携による「安全」「安心」「快適」の提供」、「みどりのサポートセンター発の地域による地域のための公園づくり」「誰もが健康で幸せに暮らせる健幸都市の拠点として地域コミュニティ活動と協働の公園づくり」として運営します。

コロナ禍での収支バランスも考慮し、新型コロナウイルス感染症対策である「ロクハモデル」の見直しを進める一方、ひとまちキラリ活動助成団体であるキラリ☆ウインドポップスと連携し、ロクハ公園の四季を楽しむ「木陰の散歩道コンサート」を開催するなど、利用者が安全・安心・快適に利用できるよう施設運営に努めます。

① ロクハ公園プール管理運営事業（構成団体 28,968 千円）

構成団体である（株）サンアメニティ大阪が全国で実施しているプール運営事業のノウハウを生かして管理運営を行います。指導経験豊かな講師による水泳教室やキッズダンス等のプールサイドイベント等で集客を図るとともに、ロクハ荘温浴施設の割引などロクハ荘と連携したオールロクハのサービスを提供します。

また、草津市と協議しながら、with コロナの「ロクハモデル」の見直しを進めるとともに、セブンイレブンでの前売券販売など、プール入場時の混雑緩和に取り組み、安全、安心、快適に、行って良かったと思って頂けるロクハ公園プールの管理運営を目指します。



② 公園維持管理事業（構成団体 14,003 千円）

ロクハ公園を含む約330か所の市内児童公園などの遊具や外構の点検、設置、更新と危険遊具の撤去、公園施設の維持管理を行います。令和3年度から、市民からの要望や問い合わせ窓口として「みどりのサポートセンター」を設置し、構成団体である草津造園協同組合とともに対応しています。



ロクハ公園を利用した「木陰の散歩道コンサート」等の音楽イベントや、立命館大学と連携した運動イベントを実施するほか、令和3年度からインターネット予約システムを導入したデイキャンプ場では、新たに（株）サンアメニティ大阪が提供する「てぶらでBBQ」事業を展開するなど、公園施設の利用者拡大に取り組みます。

③ 「みどりのサポートセンター」・ボランティア支援・ガーデニング推進事業

「みどりのサポートセンター」では、草津造園協同組合、公園ボランティアとともに「未来に向けた花と緑のまちづくり・ガーデンシティくさつの推進」の活動理念を実現するため、住民による公園管理を総合的にサポートしています。

植栽樹木の剪定や維持管理の指導、草花を使ったガーデニングなど、ニーズに応じてサポートするとともに、各学区まちづくりセンターを草花で飾る企画やサポーター養成講座などを提供し、花と緑があふれる街並みづくりに貢献します。

市民のガーデニングのお手本となるよう、ロクハ公園のメインストリートであるプロムナードでは、四季折々の装飾を施して公園利用者の憩いの場を提供します。



④ 環境学習事業やロクハ荘との連携事業

環境学習事業では、ロクハ公園の恵まれた自然環境を最大限活用して、ウォッチングシリーズ、ロクハツアーシリーズ、〇〇の日シリーズ、カブトムシ観察会などの人気企画を自主事業として継続します。カブトムシの飼育では、市民ボランティアの協力を得ながら進め、講座申込にインターネット予約システムを導入するなど、さらに市民に愛される事業展開を目指します。

ロクハ荘との連携では、高齢者を対象にロクハ公園の施設や自然環境を利用したフレイル予防講座や「つどいの広場くれよん」の未就園児と保護者を対象にしたロクハ実験農場や水遊びを行うなど、オールロクハで「健幸都市くさつ」に貢献します。



4. 社会教育及び文化・スポーツに関する事業

(1) 文化ホール

新たな指定管理期間（令和2年度からの5年間）の3年目に入ります。「“あなたらしさ”をプロデュースする文化ホール」を基本理念に、「made in くさつ」の文化、「草津らしさ」「草津スタイル」と呼ばれる、草津の個性となる文化芸術事業を実施します。事業団の強みである地域でのネットワーク力、コーディネート力を有する中間支援機能（草津アートセンター機能）を充実し、草津市文化振興条例、同計画の推進に寄与します。

コロナ禍の中で、昨年度も、緊急事態宣言による臨時休館や公演の中止、延期、客席制限などがありました。今年度は、クレアホールの屋根・外壁改修等工事による休館が5月から6月にかけて予定されていますが、with コロナで草津市の文化芸術振興をリードする事業展開を図っていきます。

ア. 鑑賞型事業（11,179千円）

鑑賞型事業では、定番となっている劇団四季公演や劇団四季心の劇場のほか、滋賀県等とも連携を行いながら、子どもたちをはじめ、多くの市民に本物の舞台芸術を鑑賞する機会を提供します。

- ① 劇団四季 ファミリーミュージカル 「人間になりたがった猫」公演
- ② 劇団四季 心の劇場 市内小学6年生を招待するファミリーミュージカル公演
- ③ 令和4年度宝くじ文化公演事業

日本を代表するプロの吹奏楽団シエナウインドオーケストラが、指揮者に青島広志を迎え、楽しいおしゃべりと演奏による音楽会

- ④ NHK公開ラジオ番組 『民謡をたずねて』の公開収録

- ⑤ 滋賀県アートコラボレーション 採択事業

滋賀県文化奨励賞受賞者によるコンサート『詩人 野呂昶 の世界』

- ⑥ 滋賀県アートコラボレーション事業 2022 『おうみ狂言図鑑』

茂山千五郎家による古典作品と滋賀県を題材にした創作狂言の公演

イ. 普及啓発事業（945千円）

普及啓発事業では、劇場での本公演を前に、鑑賞型事業のおうみ狂言図鑑や、クレア舞台芸術学校の歌劇団とのコラボレーションを行います。

① 狂言ワークショップ 学校アウトリーチ

教科書で学ぶ『柿山伏』など狂言の魅力をプロから学び、「すり足」「発声」などの体験を通して古典芸能へ関心を高めます。



② ダンスワークショップ

クレア舞台芸術学校のアウトリーチとして、歌劇団オリジナルプログラム（草津をテーマにした歌曲）を活用し、地域の子どもたち向け、ダンスワークショップを行います。



ウ. 市民協働事業（4,924 千円）

① 草津市芸術祭 2022

これまで各文化団体と協働で実施してきた合唱祭、文化祭、プラスフェスを統合し、芸術祭週間とし、公募団体による実行委員会制で開催します。

② ワンコインコンサートシリーズ 2022

地元のアーティストや音楽団体等とともに創るコンサート

③ アミカホール開館 30 周年記念事業ウィークエンドコンサート

エ. 創造型事業（14,083 千円）

① クレア舞台芸術学校

- ・草津歌劇団 予科生、本科生の募集とオリジナルミュージカルの公演
- ・くれあ座子ども和楽団 箏、日本舞踊のワークショップの開催

② 『クリアで会いましょう』クリスマスコンサート 2022

市民オーケストラを中心に創るクリスマスコンサート

③ わくわく子どもの広場『マッチと一緒にあそぼ！』一日アート体験

夏休みにクリアホール全館を使ったアート体験とファミリーコンサート

オ. 重点プロジェクト事業（1,529 千円）

- ① 草津市街道交流館 草津宿本陣と連携した企画展示
- ② 中庭を活用したアート展
- ③ 子育て支援コンサート

カ. 情報発信事業（1,580 千円）

- ① 月刊草津アートセンター 情報誌の発行
- ② えふえむ草津 『月刊 草津アートセンター』番組製作

キ. 次世代育成事業（3,064 千円）

- ① アーティスト登録 技術支援
- ② オリジナルプログラムの開発
- ③ アートマネジメント 人材育成研修
- ④ 中学校プラスフェス支援



(2) スポーツ振興

事業団が出資する合同会社草津市スポーツ振興事業体の業務執行社員の一員として、スポーツ施設の運営および維持管理を行います。構成団体にコナミスポーツを加えた指定管理の2期目、合同会社として5期目の初年度であり、令和7年度に滋賀県で開催が予定される、国民スポーツ大会、障害者スポーツ大会の成功のためにも、大切な1年となります。

第6期草津市総合計画の基本理念である『ひと・まち・ときをつなぐ絆をつむぐ ふるさと健幸創造都市 草津』の実現や『「する みる 支える 知る」“ALL くさつ”でつなぐ健幸スポーツのまち』を基本理念とした第2期草津市スポーツ推進計画の各種施策の達成に貢献するため、草津市、連携事業者、草津市スポーツ協会等の競技団体や学区体育振興会等の地域団体と協力して取組を進めます。

<指定管理者としての管理施設>

- ① 総合体育館
- ② 弾正公園（草津グリーンスタジアム、
弾正テニスコート、多目的広場）
- ③ 野村運動公園（グラウンド）
- ④ ふれあい体育館・運動場
- ⑤ 武道館
- ⑥ 三ツ池運動公園（芝生グラウンド、テニスコート）
- ⑦ 野村公園 YMIT アリーナ（くさつシティアリーナ）



※令和4年度は、総合体育館屋根・床面改修工事（令和4年7月～令和5年2月）、草津グリーンスタジアム人工芝改修工事（令和5年1月～3月）等が予定されています。

施設の運営にあたっては、利用者が快適で安全に利用できるよう、施設の維持管理の充実を図るとともに、公平公正に努め、各種サービスの向上に取り組めます。

また、コロナ感染症対策については、消毒液の設置、換気の徹底、運動前後のマスク着用等の対策を利用者へ周知するとともに、社員の感染症対策を責任と自覚をもって行います。

YMIT アリーナで行う賑わい創出事業については、コナミスポーツの持つネットワークを生かした事業展開を進めるとともに、「第2期草津市スポーツ推進計画」において、重点化された「ライフステージにあわせた健康づくり（子育て世代や働き世代へのアプローチ）」や「健康増進イベントの開催」等については、関係団体とも協力しながら積極的に対応します。

1. 公共施設管理

公共サービスの充実や公益目的事業に付随する事業を行うことにより、住みよいまちづくりに寄与することを目的として公共施設の管理等を行います。

① 道の駅草津駐車場

「道の駅草津」駐車場の管理運営を受託し、ドライバーの安全で快適な運転に要する休憩の場を提供しながら、草津の歴史・文化・名所などの紹介など、県内外から車で訪れる利用者にとって草津の玄関口となる多機能型の施設として、情報発信と地域振興に努めます。

② 長寿の郷ロクハ荘、クリアホール、アミカホール、ロクハ公園等の維持管理

長寿の郷ロクハ荘に設置されている温浴施設をはじめ、クリアホールやアミカホールおよびロクハ公園等の修繕や維持管理を、より一層の経費節減に努めながら適正に行います。